

[科目区分]：大学院：教育実践高度化専攻
[授業科目名]：子どもの問題行動の事例研究
[登録学生数]：12

令和2年度 授業評価・授業研究報告

教育学研究科 池田 哲也

1 授業概要

この授業は、事例研究の手法を通して、子供への個別対応の意義を考え、子供の問題行動への理解を深め、個別対応的な実践力の習得を試みる、3名の教員でのオムニバス授業である。私は、「高等学校編」の5時間を担当した。

授業内容としては、前半の2時間は、高校における問題行動の事例を複数紹介し、どう対応すればよいかをグループ・ディスカッションで考えさせ、その後話し合い結果の共有や実際の対応例の紹介という流れで進めた。後半3時間は、問題行動への対応から一歩進めて、問題行動防止のためのリスクマネジメントについて考えるために、個別に「ヒヤリハット事例」を発表したり、現場で持続可能な危機管理研修について考えたりするとともに、具体的に研修体験も行った。

授業全体を通じて、一方的に知識を与えるのではなく、常に自分で考え、それをグループで共有する場面をできるだけ多く設定するよう心掛けた。

2 授業評価の方法

授業評価の方法としては、授業の前半後半のそれぞれ終了時に、受講した学生から、授業の感想という形でフィードバックをもらった。以下、主な感想を挙げる。

○問題行動の事例研究について

- ・ケース・スタディでの演習を通して、複数の視点で検討することにより、自分一人では考えが及ばなかったことや、異なる視点が見えてきた。自分が、この対応が良いのではないかと感じて、異なる視点から見ると、その対応では上手くいかない部

分もあり、多面的に検討していくことで、より効果的な対応方法につなげることができた。

- ・事例研究を通して、高等学校における問題行動にどのように対応すれば良いかが明確になった。
- ・私の勤務校である中学校種と比較しながら一つひとつ把握していくことができた。

○問題行動防止のための危機管理について

- ・シミュレーションや事例研究、卓上訓練などを行い、定期的に危機管理マニュアルを見直していくことも重要であるということを知ることができた。
- ・ヒヤリハットの法則から、学校の危機管理を行うためには、あらゆる不測の事態を想定しておくことの重要性を知ることができた。
- ・短時間で実際に役立つ研修を実施するヒントを知ることができた。紹介された書籍の事例を用いた卓上訓練は、職員研修でも実施できそうだった。
- ・リスクマネジメントについて、演習を通して学ぶ中で、チームで対応することの重要性を改めて感じるとともに、チームが上手く機能するための、より具体的で迅速な対応方法について、日頃から話し合っておく必要があると感じた。

以上から、一方的に知識を与えるのではなく、常に自分で考え、それをグループで共有することにより、理解がさらに深まっており、本授業の目的は達成されたと感じた。ただし、自由記述のみのフィードバックに終わってしまったので、今後は評価方法を更に工夫したい。